

高砂百合

何年前からだろう門扉の傍に咲く
どこから吹かれてきたか
白い百合の花

歩く姿まるで百合の花と
女性を褒める言葉に使われる

それほど綺麗な花をつけるのに
なぜか雑草と言われている

夏の終わりに咲いて散る
束の間の喜びとは裏腹なことに
ほんの少しだけの間に
愛でられて終わる儚さが
なんとも拭えない

毎年見ていたのにある年を境に
ひとつも生えなくなる
白い百合の花

花がさくその間たくさんの
タネを風に乗せて飛ばしてく

そこにいなくなっても別の場所に
旅する花と言われている

夏の終わりに咲いて散る
束の間の喜びとは裏腹なことに
ほんの少しだけの間に
愛でられて終わる儚さが
なんとも拭えない